

筑後北部第二地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字高江所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第32集

2001

筑後市教育委員会

ちくごほくぶだいにちく
筑後北部第二地区遺跡群Ⅱ

たかえやなぎ
高江柳遺跡

たかえ
高江キレット遺跡

2001

筑後市教育委員会

序

筑後市教育委員会は、福岡県筑後川水系農地開発事務所の委託を受けて、平成6～8年度にかけて筑後北部第二地区遺跡群の発掘調査を実施しました。

本報告書は、平成7・8年度に発掘調査を実施しました高江柳遺跡、高江キレト遺跡の調査成果をまとめたものであり、本書が地域における文化財及び歴史に対する認識と理解を深めるとともに学術研究の一助になれば幸いと存じます。

なお、発掘調査から整理報告に至るまで、多大なご協力を頂きました関係者並びに作業参加者の方々に深く感謝します。

平成13年3月

筑後市教育委員会
教育長 牟田口和良

例 言

1. 本書は、低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業に係る筑後北部第二地区の工事に伴い、福岡県筑後川水系農地開発事務所の委託を受けて、筑後市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行い、出土遺物・図面・写真などは筑後市教育委員会において所蔵・保管をしている。なお、発掘調査および整理事業の関係者はI.調査経過と組織に記したとおりである。

3. 調査に用いた測量座標は、国土調査法第II座標系を基準としたため本書に示される方位はすべてG.N.(座標北)を示し、本文中に記される遺構の角度はこれを基準としたものである。また、水準はT.P.を基準としている。

4. 本書に使用した図面のうち、遺構の実測図は小林勇作、田中剛、大島真一郎(現：黒木町教育委員会)、田中洋子、奥村太郎、遺物の実測図は平塚あけみが作成し、図版の浄書は平塚、仲文恵が行った。

5. 本書に使用した写真のうち、遺構の写真撮影は小林、田中、大島が行い、遺物の写真撮影は小林が行った。なお、現場における空中写真撮影は(有)空中写真企画に委託した。

6. 本書に使用した遺構表示は下記の略号による。

SD-溝

SK-土塙

SP-ピット

7. 本書の執筆及び編集は小林が担当した。

目 次

I. 調査経過と組織	1
II. 位置と環境	3
III. 調査成果	7
1. 高江柳遺跡	7
(1) はじめに	7
(2) 検出遺構	8
(3) 出土遺物	10
(4) 小結	10
2. 高江キレト遺跡	11
(1) はじめに	11
(2) 検出遺構	12
(3) 出土遺物	12
(4) 小結	16
IV. まとめ	17

I . 調査経過と組織

筑後北部第2地区遺跡群は、福岡県の南部、筑後市の中央部やや西よりに位置する。古くから米や麦を中心とした稲作農耕が盛んに行われている地区であるが、近年、耕地の集団化や大区画整理、農道整備、用排水路分離など、営農体系を確立させるための大規模な農地整備事業が必要となり、実施されるようになった。

こういった状況の中、工事によって破壊される恐れのある埋蔵文化財の取り扱いについて、福岡県筑後川水系農地開発事務所から筑後市教育委員会へ照会があり、早急な対応を迫られた。市教委ではこれを受け、工事によって破壊される恐れのある箇所全てについて工事前に試掘調査を実施することとした。試掘調査の結果、埋蔵文化財が確認された場所において「筑後北部第二地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査」として実施することになり、発掘調査は工事の進行状況に応じて平成6～8年度にかけて実施した。埋蔵文化財発掘調査に係る費用は、国・福岡県から一部の補助を受け、受益者負担分については筑後市が負担し、残る費用については福岡県筑後川水系農地開発事務所において負担した。

発掘調査において出土した遺物の整理と報告書作成については、随時、筑後市役所内文化財整理室で行った。なお、筑後北部第二地区遺跡群で発掘調査が実施された内、若菜立萩遺跡・若菜田中前遺跡・若菜湖ノ江遺跡（平成6年度調査）についての報告書は既に刊行されている。

発掘調査における実施期間や面積などについては、各章の「(1) はじめに」に記す。

調査組織

報告する調査が多年度にまたがるため、ここで一括して調査体制をあげる。

1) 平成7年度調査体制（高江柳遺跡）

総括	教育長	森田 基之
	教育部長	津留 忠義
庶務	社会教育課長	下川 雅晴（～H7.9.30）
		山口 逸郎（H7.10.1～）
	社会教育係長	本村 正晴
	社会教育係	永見 秀徳
		小林 勇作（調査担当）
		田中 剛
		塚本 映子（囑託）[現：三潴町教委]
		大島真一郎（囑託：H7.12.1～H8.3.31）[現：黒木町教委]

2) 平成8年度調査体制（高江キレット遺跡）

総括	教育長	森田 基之
	教育部長	津留 忠義
庶務	社会教育課長	山口 逸郎
	社会教育係長	本村 正晴
	社会教育係	永見 秀徳
		小林 勇作
		田中 剛（調査担当）
		柴田 剛（囑託）

3) 平成12年度報告書作成

総括	教育長	牟田口和良
	教育部長	下川 雅晴
庶務	社会教育課長	庄村 國義
	文化係長	成清 平和

文化係
永見 秀徳
小林 勇作
上村 英士
柴田 剛 (囑託)
立石 真二 (囑託)

4) 発掘調査参加者 (順不同、敬称略)

調査補助員
塚本 映子 [現：三潞町教委]
大島真一郎 [現：黒木町教委]
野田 洋子
発掘作業員
地元有志

5) 整理作業参加者 (順不同、敬称略)

整理補助員
平塚あけみ
整理作業員
野間口靖子、野口晴香、湯川琴美、徳永みどり、
馬場敦子、湊まど香、横井理絵、仲文恵、高田知恵

なお、発掘調査及び報告書作成に際しては、以下の方々にご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。

伊崎俊秋、馬田稔、新原正典、小田和利 (以上、福岡県教育庁)、狭川真一 (元興寺文化財研究所)

II.位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の中央部にあたる。市域をJR鹿児島本線と国道209号線が縦断し、国道442号線が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は、国道に沿って市の中心部に形成されている。

次に市内に点在する主な遺跡について概観する。

市内で確認されている旧石器は、「^(註1)蔵数遺跡G地点」から出土した角錘状石器、「^(註2)鶴田東大坪遺跡第1次調査」及び「鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査」から出土したナイフ形石器があり、近年の発掘調査の増加とともに出土件数が増えつつある。縄文時代における主な遺跡としては、多くの竪穴式住居などを検出した「^(註3)裏山遺跡」をはじめ、早期の石組炉を検出した「久恵中野遺跡」「志西野々遺跡」「志前田遺跡」があり、市内南部を主体とする地域から確認されている。この他、落とし穴などの遺構や押型文土器などの遺物が、近年の発掘調査で多数確認されている。

市内で確認されている弥生時代の遺跡は、前期から中期にかけての集落跡である「^(註4・5)常用長田遺跡」「^(註6)常用日田行遺跡」、中期から後期にかけての土壌群が検出された「^(註7)梅島遺跡」、中期の甕棺墓群を検出した「^(註8)蔵数東野屋敷遺跡」、後期の竪穴式住居が多数確認された「^(註9)蔵数森ノ木遺跡」などである。

古墳時代では前方後円墳である「石人山古墳」(国指定史跡)や「^(註10)欠塚古墳」(市指定文化財)があり、著名な集落跡としては多くの竪穴式住居が検出された「^(註11)蔵数森ノ木遺跡」がある。

奈良～平安時代では、400軒以上の竪穴式住居が検出された「^(註12)若菜森坊遺跡」と集落跡である「^(註13)前津中の玉遺跡」がある。また、この頃整備されたと考えられる古代官道(西海道)は、最近の調査で市内中央部を縦断していたことが解明されつつあり、967年に施行された「延喜式」にみえる『葛野駅』は大宇前津字丑ノマヤ付近に想定される。

中世では「^(註14)長崎坊田遺跡」「^(註15)井田西中野遺跡」「^(註16)若菜森坊遺跡」「^(註17)高江原口遺跡」「^(註18)島田外屋敷遺跡」「^(註19)下北島櫛引遺跡」から館跡などを巡る壕跡が確認され、輸入陶磁器、国産陶器などが多く出土している。

近世では「^(註20)四ヶ所古四ヶ所遺跡」「^(註21)若菜湖ノ江遺跡」から近世陶磁器を認めているなど、近世遺跡の調査件数も増えてきている。

【参考文献】

- (註1)「筑後市史」 筑後市史編纂委員会 1997
- (註2)「筑後東部地区遺跡群III」 筑後市文化財調査報告書 第25集 筑後市教育委員会 2000
- (註3)「裏山遺跡」 調査概報 筑後市教育委員会 1966
- (註4)「梅島遺跡-第1次調査-」 筑後市文化財調査報告書 筑後市教育委員会 1992
- (註5)「筑後西部地区遺跡群II」 筑後市文化財調査報告書 第29集 筑後市教育委員会 2000
- (註6)「前津中の玉遺跡」 筑後市文化財調査報告書 第4集 筑後市教育委員会 1987
- (註7)「蔵数遺跡群」 筑後市文化財調査報告書 第6集 筑後市教育委員会 1990
- (註8)「欠塚古墳」 筑後市文化財調査報告書 第8集 筑後市教育委員会 1993
- (註9)「前津中の玉遺跡II」 筑後市文化財調査報告書 第22集 筑後市教育委員会 1999
- (註10)「長崎坊田遺跡」 筑後市文化財調査報告書 第23集 筑後市教育委員会 1999
- (註11)「筑後西部地区遺跡群」 筑後市文化財調査報告書 第15集 筑後市教育委員会 1995
- (註12)「高江原口遺跡」 福岡県文化財調査報告書 第109集 福岡県教育委員会 1993
- (註13)「四ヶ所古四ヶ所遺跡」 筑後市文化財調査報告書 第10集 筑後市教育委員会 1994
- (註14)「筑後北部第二地区遺跡群」 筑後市文化財調査報告書 第16集 筑後市教育委員会 1995

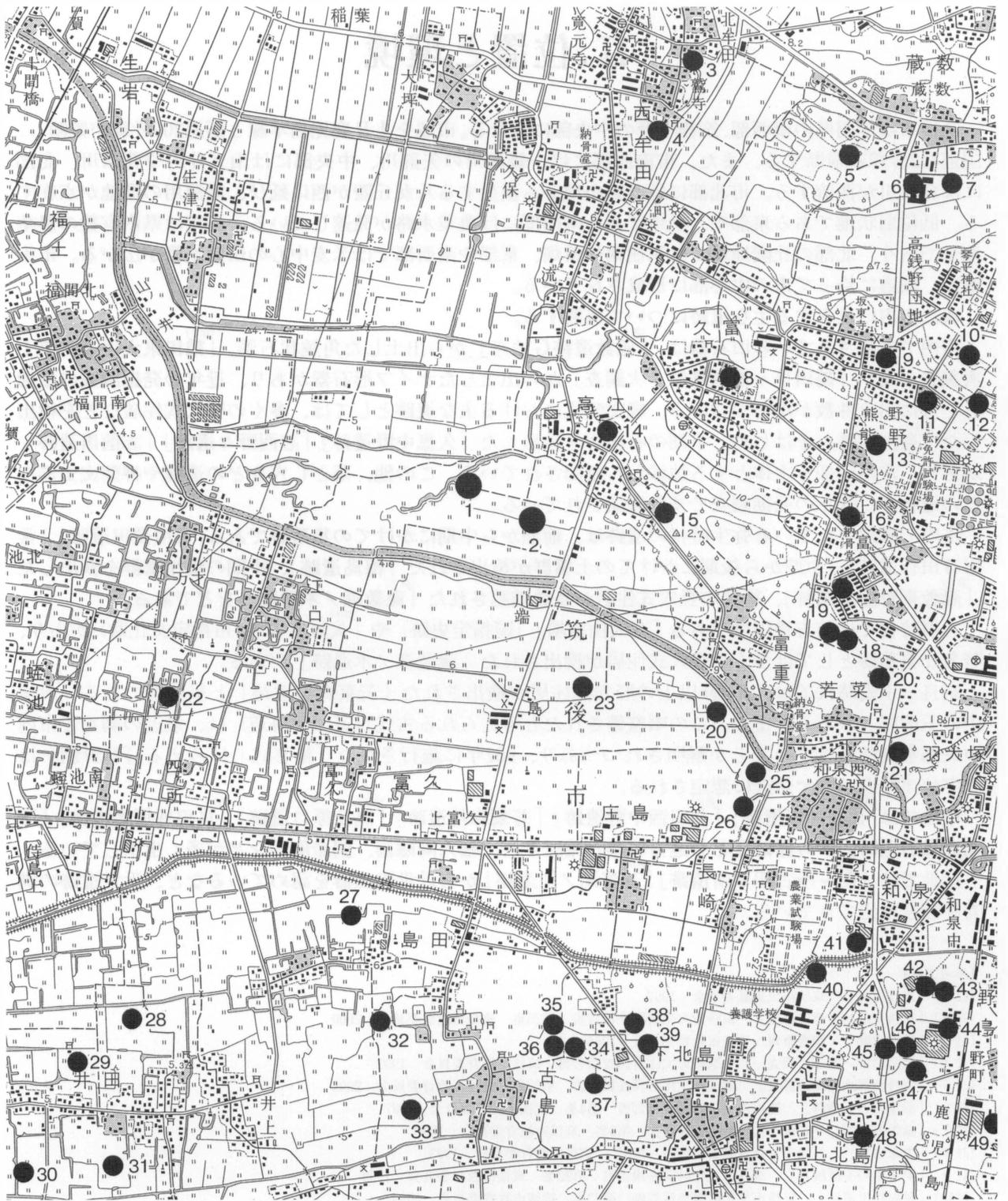


Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

1. 高江柳遺跡 2. 高江キレト遺跡 3. 西牟田鷲寺遺跡 4. 西牟田小次郎丸遺跡 5. 蔵数坂口遺跡 6. 蔵数森ノ木遺跡 (1次) 7. 蔵数森ノ木遺跡 (2次) 8. 久富島居遺跡 9. 熊野屋敷遺跡 (1次) 10. 熊野山ノ前遺跡 11. 熊野屋敷遺跡 (2次) 12. 熊野塚根遺跡 13. 久富大門口遺跡 14. 高江原口遺跡 15. 高江遺跡 16. 久富斗代遺跡 17. 久富市ノ玉遺跡 18. 若菜大堀遺跡 (1次) 19. 若菜大堀遺跡 (2次) 20. 若菜箱ノ本遺跡 21. 若菜森坊遺跡 22. 四ヶ所古四ヶ所遺跡 23. 若菜立萩遺跡 24. 若菜田中前遺跡 25. 若菜湖ノ江遺跡 26. 長崎坊田遺跡 27. 島田外屋敷遺跡 28. 井田西中野遺跡 29. 井田栗ノ内遺跡 30. 井田下堀越遺跡 31. 井田堀越遺跡 32. 島田三反田遺跡 33. 古島相遺跡 34. 古島榎崎遺跡 (1次) 35. 古島榎崎遺跡 (2次) 36. 古島榎崎遺跡 (3次) 37. 下北島榎崎遺跡 38. 下北島久清遺跡 39. 下北島久之遺跡 40. 下北島揃引遺跡 41. 和泉近道遺跡 42. 井原口遺跡 43. 上北島井原口遺跡 44. 狐塚遺跡 45. 上北島花畑遺跡 (1次) 46. 上北島花畑遺跡 (2次) 47. 上北島塚ノ本遺跡 48. 上北島前田遺跡 49. 上北島平塚遺跡

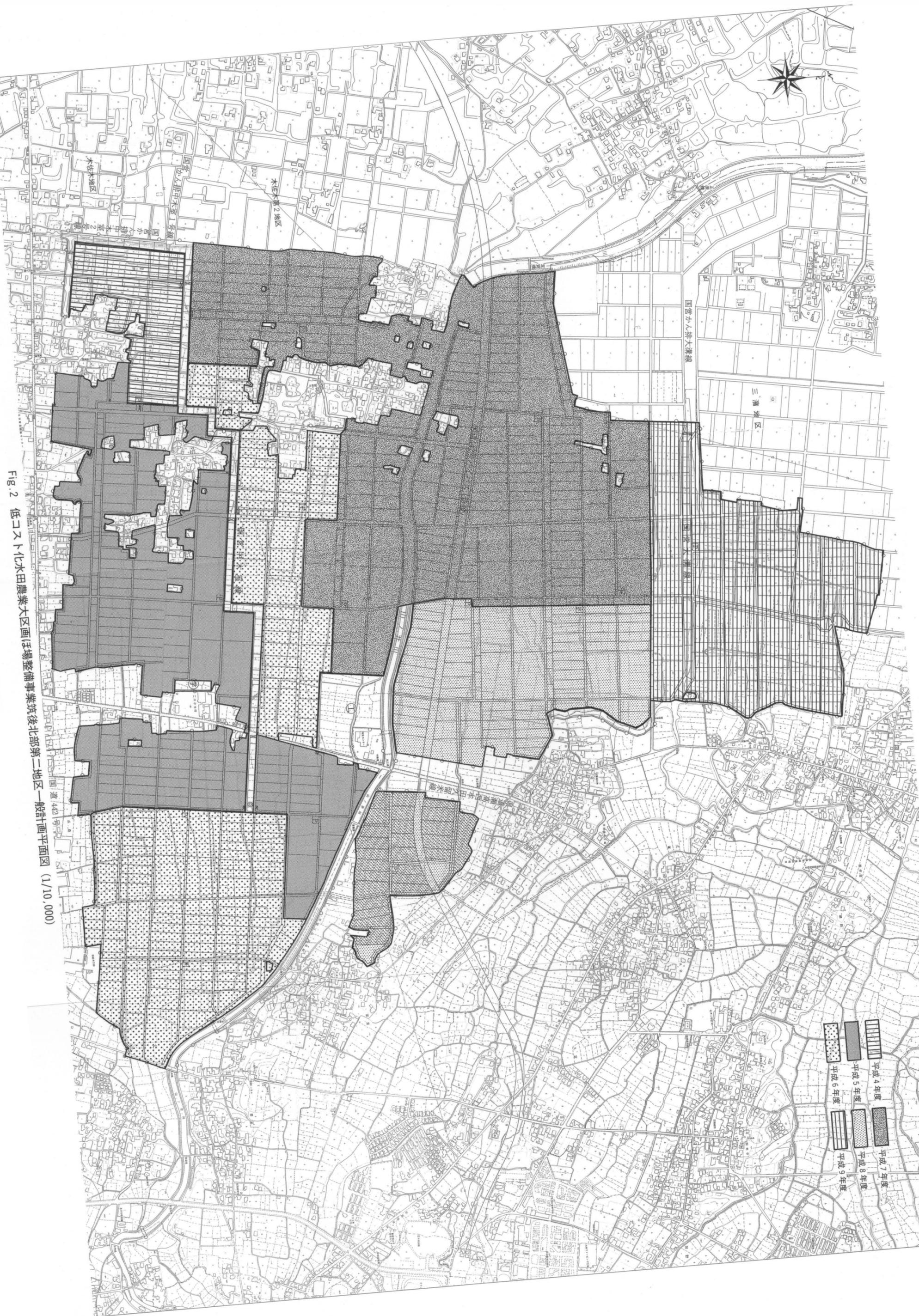


Fig. 2 低コスト水田農業大区画ほ場整備事業筑後北部第二地区一般計画平面図 (1/10,000)

III. 調査成果

1. 高江柳遺跡

(1) はじめに (Fig.3)

当遺跡は、筑後市大字高江字柳に所在し、標高4.0m位の沖積低地上にある。発掘調査は平成7年度に施工された県営ほ場整備事業筑後北部第二地区内において、遺構が掘削・削平を受ける772㎡を実施した。調査期間は平成7年9月8日から同年10月23日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影等を行った。調査は小林勇作が担当し、大島真一郎（現：黒木町教委）の協力を得た。

調査の結果、調査区からは溝や土壇等を検出し、以下はその成果について報告する。



Fig.3 高江柳遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

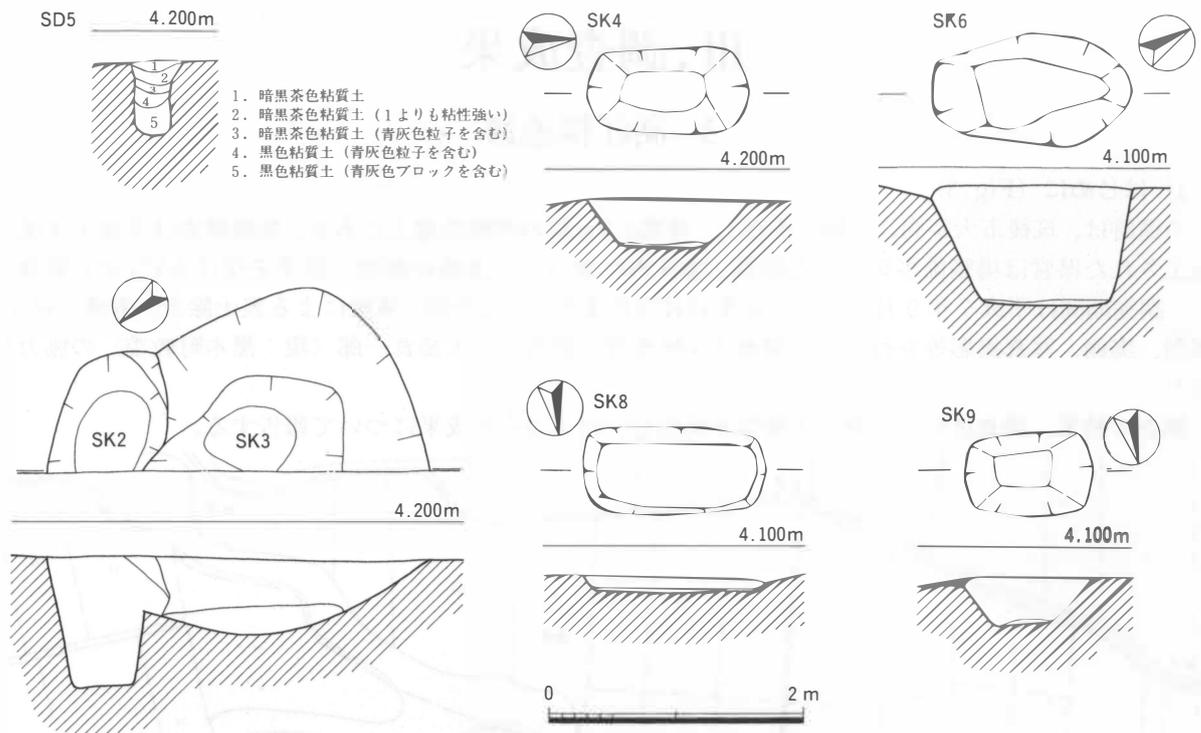


Fig.4 溝・土壌実測図 (1/60)

(2) 検出遺構

溝

SD1 (Fig.5)

調査区の北端で約10m分を検出した。黒褐色粘土を基調とする埋土で、遺構面からの深さは86.0cm程で溝底に達しておらず、更に深くなるものと考えられる。溝の北部には現況クレークが同じ方向で走っており、クレーク側面部が自然堆積したものと思われる。遺物は土師器(小皿)、瓦器(片)を僅かに認めている。

SD5 (Fig.4, Pla.2)

調査区北部で約9m分を検出し、西端は終息する。溝の幅は0.35~1.90m、深さは0.60mを測り、溝の断面はほぼ長方形を呈する。埋土は黒茶色粘土で、遺物は出土していない。

土壌

SK2 (Fig.4, Pla.2)

調査区の北部で検出した楕円形状の土壌で、SK3に切られる。上幅0.89m、下幅0.55m、深さ1.03mを測り、埋土は黒茶色粘土であった。出土遺物はない。

SK3 (Fig.4, Pla.2)

調査区北部で検出し、SK2を切る。楕円形状の土壌で、深さは0.68mを測る。埋土は黒茶色粘土を基調とし、遺物は出土しなかった。

SK4 (Fig.4, Pla.3)

調査区北部で検出した隅丸長方形形状の土壌で、長軸1.28m、短軸0.67m、深さ0.39mを測る。主軸はN-5°-Eである。

SK6 (Fig.4)

調査区のほぼ中央から検出した不定形な土壌で、底面はほぼフラットである。長軸1.58m、短軸0.89m、深さ0.96mを測り、主軸はN-29°-Eである。

SK8 (Fig.4, Pla.3)

調査区のほぼ中央から検出した隅丸長方形形状の土壌である。長軸1.45m、短軸0.71m、深さ0.11mを

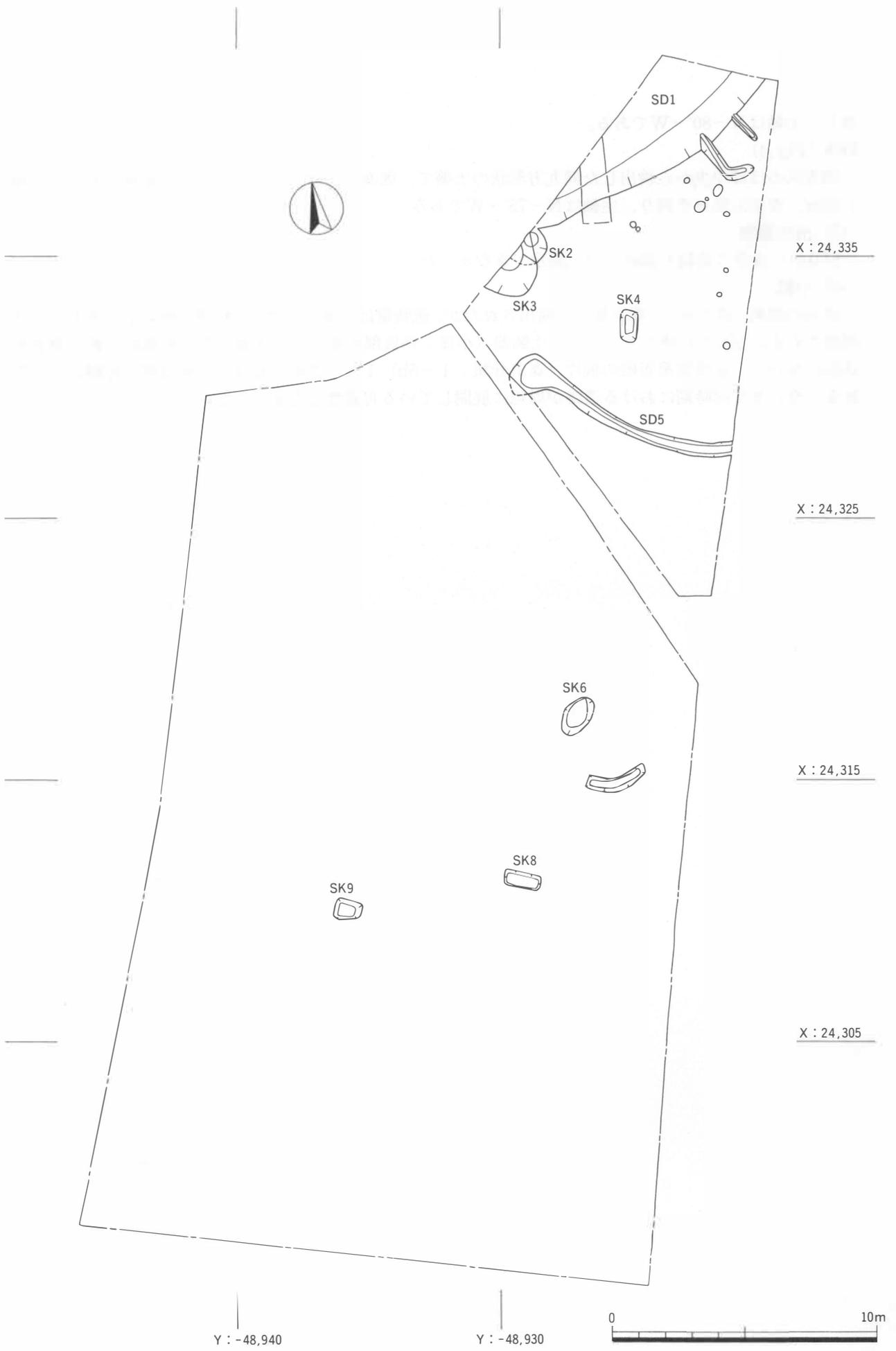


Fig.5 高江柳遺跡遺構全体実測図 (1/200)

測り、主軸はN-80°-Wである。

SK9 (Fig. 4)

調査区のほぼ中央から検出した隅丸形状の土壇で、底面はほぼフラットである。長軸1.01m、短軸0.66m、深さ0.35mを測り、主軸はN-75°-Wである。

(3) 出土遺物

SD1から少量の遺物を認めたが、図示できなかった。

(4) 小結

調査の結果、溝2条、土壇6基等が検出されたが、遺物量は少量に止まり、時期を明らかにすることは困難である。SD1から僅かではあるが土師器（小皿：外底部糸切り）と瓦器（片）を認め、更に調査前試掘において、龍泉窯系青磁の椀片（森田分類：I-5b）1点を認めており、中世以降の時期が考えられる。合わせて同時期における遺跡が周辺に展開している可能性も否定できない。

2. 高江キレット遺跡

(1) はじめに (Fig.6)

当遺跡は、筑後市大字高江字キレットに所在し、標高4.7m位の沖積低地上にある。発掘調査は平成8年度に施工された県営ほ場整備事業筑後北部第二地区内において、遺構が掘削・削平を受ける449m²を実施した。調査期間は平成8年7月29日から同年10月23日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影等を行った。調査は田中剛が担当し、田中洋子の協力を得た。

調査の結果、調査区からは溝4条等を検出し、以下はその成果について報告する。



Fig.6 高江キレット遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 検出遺構

溝

SD1 (Fig.7・8)

調査区西端で検出した南北溝で、4.9m分を確認した。上幅0.46～1.20m、下幅0.12～0.36m、深さ0.20m前後を測り、溝内東側に2穴の小ピットを呈する。遺物は土師器(甕)、青磁(椀)、陶器(甕)、染付(椀)、瓦、ガラス製品(ビー玉・片)等が出土している。

SD2 (Fig.7・8) SD1の東隣で検出した南北溝で、5.2m分を確認した。上幅0.68～1.02m、下幅0.24～0.54m、深さ0.18前後を測り、溝の南端はSP6に切られる。遺物は土師器(片)、青磁(片)、陶器(片)、染付(片)、黒曜石等が出土している。

SD4 (Fig.7・8、Pla.5)

調査区東部で検出した北西-南東方向の溝で、約14m分を確認し、上幅約2.80mを測る。溝の中央西よりの部分では、溝が分岐している箇所で、分岐地点の溝底には連続する小ピットが4穴確認された。更に連続する小ピットは溝の西端でも確認されている。分岐地点から東の溝底は更に深くなっており、分岐する南側の溝では木材を用いた施設が確認された。施設は、矢板を溝に直行するように打ち込み、その内外の所々に杭を打ち込んだもので、平面プランは方形状に構築される。施設の西側中央部は開口されており、何らかのものを蓄える施設であったと思われる。杭はSD4の溝岸からも確認されており、遺構構築にあたって人為的な作業を施したものと考える。遺物は青磁(椀)、染付(片)等の他に、近代の土管やガラス容器、金属製品(鎌・包丁)等が出土している。

SD5 (Fig.7・8)

SD1の西端で約4.0m分を検出した。深さは0.15m前後と浅く、遺物は土師器(皿)、陶器(片)、瓦等を確認している。

(3) 出土遺物

溝

SD1 (Fig.9、Pla.6)

龍泉窯系青磁

椀(1) 高台径は7.0cmを復元し、内底見込みに文様が施される。森田分類I-4・aか。

染付

合子蓋(2) 口径5.8cm、器高1.3cmを測り、乳白色の釉を内外面の全面に施釉する。内面は細かい櫛目を施す。天井部外面に呉須で書かれた銘が看取される。

SD4 (Fig.9、Pla.6~8)

龍泉窯系青磁

皿(3) 底径4.0cmを測り、内底見込みに複雑な花文を施している。外底部は釉を掻き取っている。森田分類I-2・c。

染付

皿(4~6) 4は口径13.0cm、高台径6.2cm、器高3.6cmを復元する。内底は蛇ノ目状に釉を掻き取り、畳付け部は露胎である。体部内面及び内底見込みに呉須で文様を描く。5は口径13.0cm、高台径7.3cm、器高2.7cmを測る。全面に施釉し、内面には濃青色で文様をプリントする。口縁端部には口紅を施す。6は高台径7.9cmを測る底部の細片で、内底見込みと外底は蛇ノ目状に釉を掻き取っている。内面には濃青色で文様をプリントする。

大皿(7) 体部内面にタコ唐草文、内底見込みに松葉文を呉須で描いている。畳付け部は露胎で、砂が付着している。高台径は14cm前後と思われ、高台外側には帯状の付着物が看取される。

角皿(8) 方形状を呈する角皿と思われ、高台は円形状に作られている。高台径は13~14cm前後と思われ、内面には濃青色で文様をプリントする。

鉢(9) 高台径7.7cmを復元する細片で、底部から口縁部に向かっては大きく外反する。内底見込みにハリ支え跡が看取され、体部内外面には呉須で文様を施す。

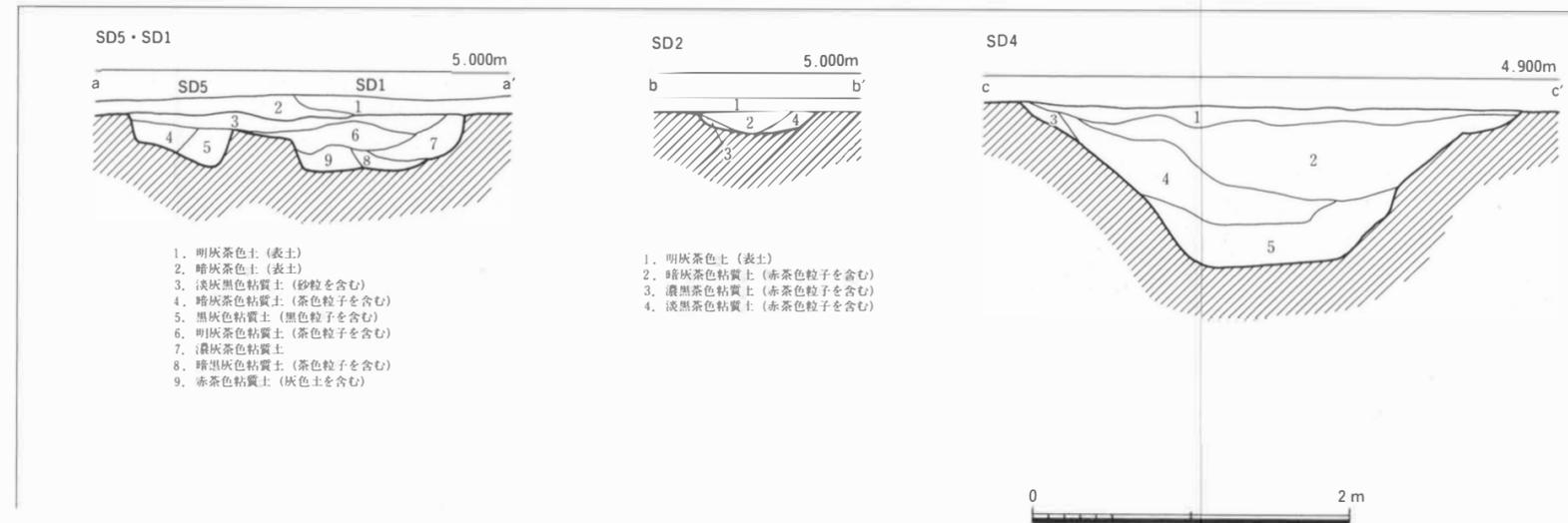
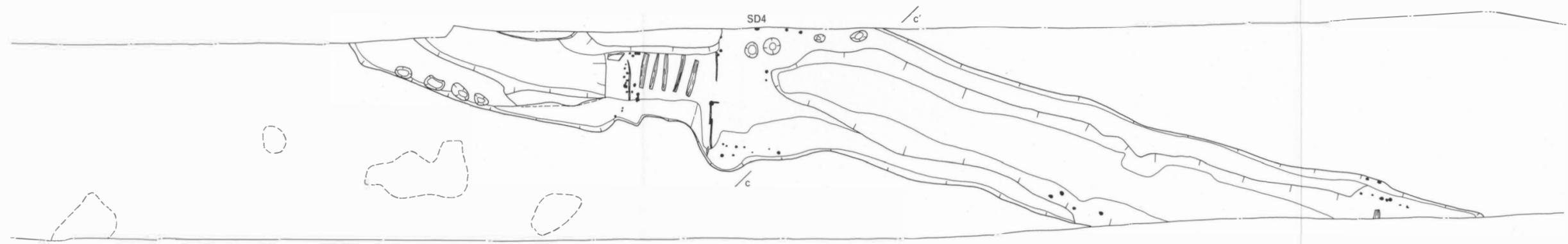
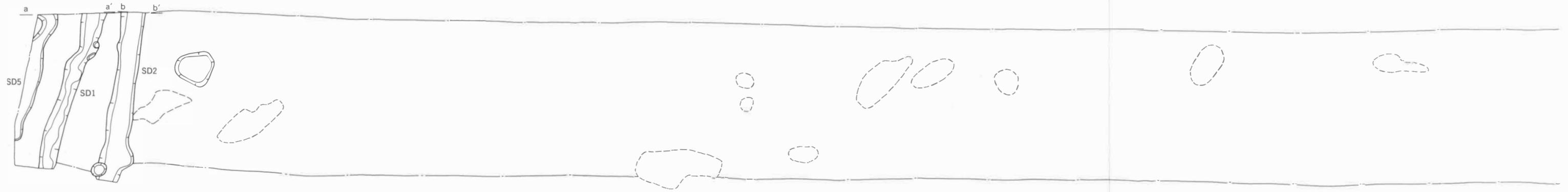


Fig.7 高江キレト遺跡遺構全体実測図 (1/100)

Fig.8 溝土層断面実測図 (1/40)

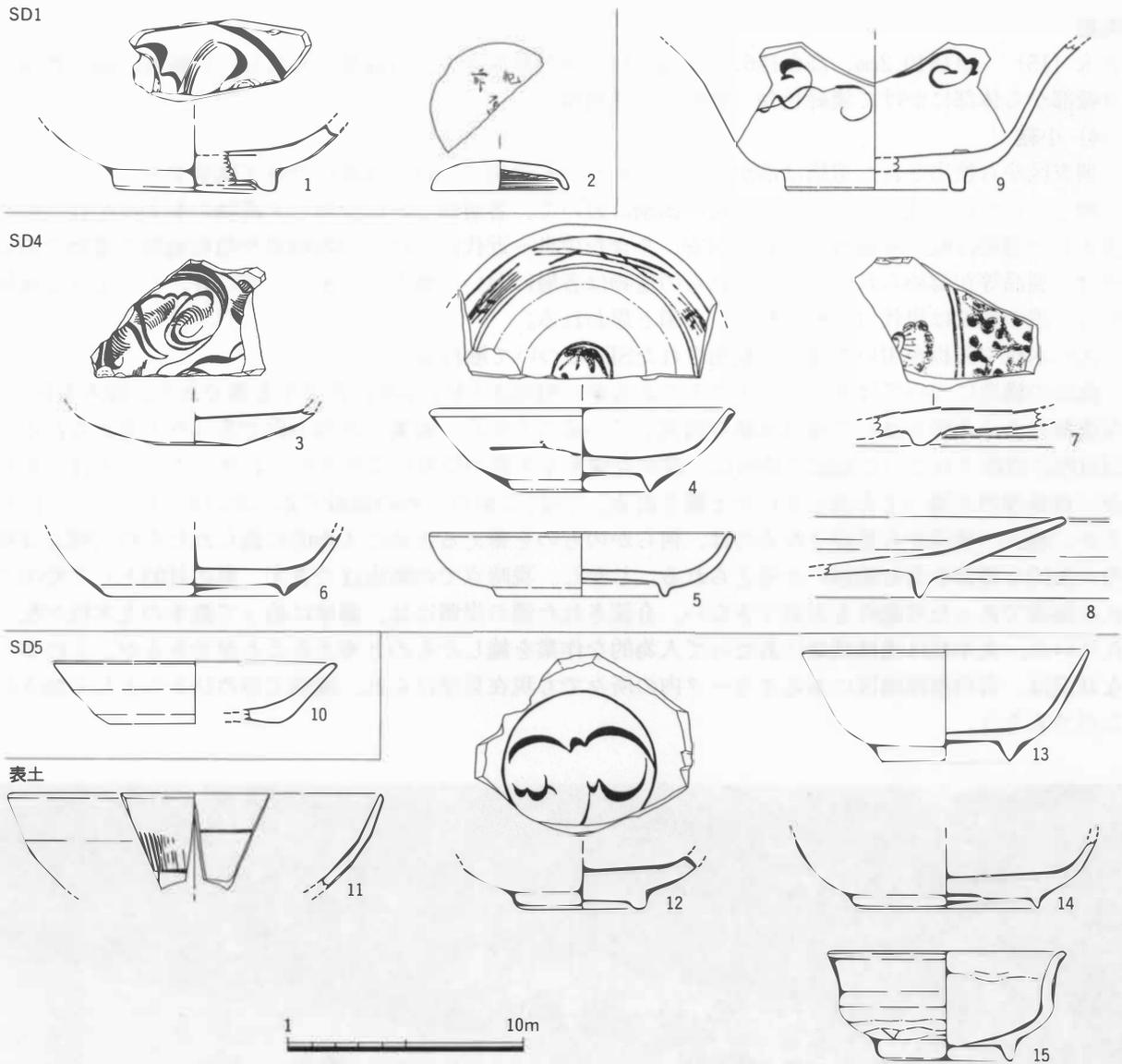


Fig.9 溝・表採出土土器実測図 (1/3)

SD5 (Fig.9)

土師器

坏 (10) 口径12.0cm、底径7.4cm、器高2.7cmを復原する。表面は著しく磨耗しているので調整は不明である。

表採 (Fig.9、Pla.8)

同安窯系青磁

碗 (11) 口縁部の細片で、口径16.0cmを測る。体部内面上位に沈線、体部外面に櫛目を施している。森田分類 I-1・b。

龍泉窯系青磁

碗 (12) 高台径5.7cmを測る底部の細片で、内底見込みに蓮花文を施している。森田分類 I-2・a。

磁器

碗 (13) 口径12.2cm、高台径5.7cm、器高4.8cmを測る。畳付け以外に茶褐色の鉄釉を施釉する。

染付

皿 (14) 高台径8.0cmを測り、内面には淡青色の文様をプリントしている。内底見込みに3ヶ所のハリ支え跡が残り、外底部は露胎である。

陶器

火入 (15) 口径10.2cm、高台径6.0cm、器高4.7cmを復原する。口縁部は外反し、口縁部内面と外面の口縁部から体部にかけて濃緑色釉（銅釉？）を施釉する。

(4) 小結

調査区から検出された遺構は溝が大半を占めている状況で、以下は溝について概略する。

検出された溝 (SD1～5) は調査段階の掘削において、各層位ごとに分層して遺物の取上げを行った。出土した遺物は輸入陶磁器（龍泉・同安）を含む中世～近代にかけての陶磁器や昭和前期の遺物であるガラス製品等が認められており、これらの遺物は各層において散在的に出土している。このような状況から、溝の埋没は現代（昭和前期？）の頃と思われる。

次に木杭や矢板を用いた施設が検出されたSD4について触れる。

施設の構造については先述したところであるが、SD4は「Y」字状に合流する溝であり、流水方向は、当遺跡のすぐ北側をはしる現況水路が西流していることから、南東→北西方向であったと考えられる。SD4内に設置されていた施設の場所は、溝が合流する手前の位置に設置されており、このことは、流水が一旦施設内を通過して合流していたと解される。では、「何のための施設であったのか」ということになるが、施設の構造から想定されるのは、何らかのものを蓄えるために人為的に造られたもの（例えば梁等の畷的な要素を含む施設）と考えられる。しかし、現時点での断定はできず、別の目的として使用された施設であった可能性も否定できない。合流された溝の岸側には、溝岸に沿って数本の丸木杭が配されていた。丸木杭は遺構構築にあたって人為的な作業を施したものと考えることができるが、このような状況は、市内西部地区にあるクリーク内の所々でも現在見受けられ、護岸工事のひとつとして施されたのであろう。



現在のクリーク内に設置された施設の状況

IV.ま と め

平成6～8年度にかけて実施されてきた筑後北部第2地区遺跡群の埋蔵文化財発掘調査は、本書をもって完了することとなる。発掘調査の成果については報告書を参照していただきたいが、以下に事業で実施された筑後北部第2地区遺跡群発掘調査の概要を紹介することでまとめとしたい。なお、本書で報告した遺跡については、末尾の「報告書抄録」と重複するので、ここでは割愛する。

1. 若菜立萩遺跡

- 1) 遺跡の所在地 福岡県筑後市大字若菜字立萩161-1ほか
- 2) 調査期間 平成6年4月18日～平成6年7月15日
- 3) 調査面積 約500㎡
- 4) 調査担当者 小林勇作
- 5) 調査所見 トレンチ状に設定された調査区からは、掘立柱建物1棟、溝12条、土壇10基、井戸1基等が検出され、須恵器、土師器、越州窯系青磁、同安窯系青磁、陶器、石器等の遺物が出土している。
- 6) 報告書名 「筑後北部第二地区遺跡群」筑後市文化財調査報告書第16集 1995



若菜立萩遺跡調査区全景（西から）

2. 若菜田中前遺跡

- 1) 遺跡の所在地 福岡県筑後市大字若菜字田中前61-1ほか
- 2) 調査期間 平成6年7月21日～平成6年10月31日
- 3) 調査面積 約900㎡
- 4) 調査担当者 小林勇作
- 5) 調査所見 トレンチ状に設定された調査区からは、溝3条、土壇3基等が検出され、弥生土器、土師器、白磁、陶器、染付、銭貨等の遺物が出土している。
- 6) 報告書名 「筑後北部第二地区遺跡群」筑後市文化財調査報告書第16集 1995



若菜田中前遺跡調査区全景（西から）

3. 若菜湖ノ江遺跡

- | | |
|-----------|---|
| 1) 遺跡の所在地 | 福岡県筑後市大字若菜字湖ノ江1030ほか |
| 2) 調査期間 | 平成6年8月5日～平成6年10月31日 |
| 3) 調査面積 | 1,225m ² |
| 4) 調査担当者 | 小林勇作 |
| 5) 調査所見 | トレンチ状に設定された調査区からは、掘立柱建物1棟、溝20条、土壇21基等が検出され、弥生土器、土師器、瓦器、瓦質土器、青磁、陶器、染付、石器等の遺物が出土している。 |
| 6) 報告書名 | 「筑後北部第二地区遺跡群」筑後市文化財調査報告書第16集 1995 |

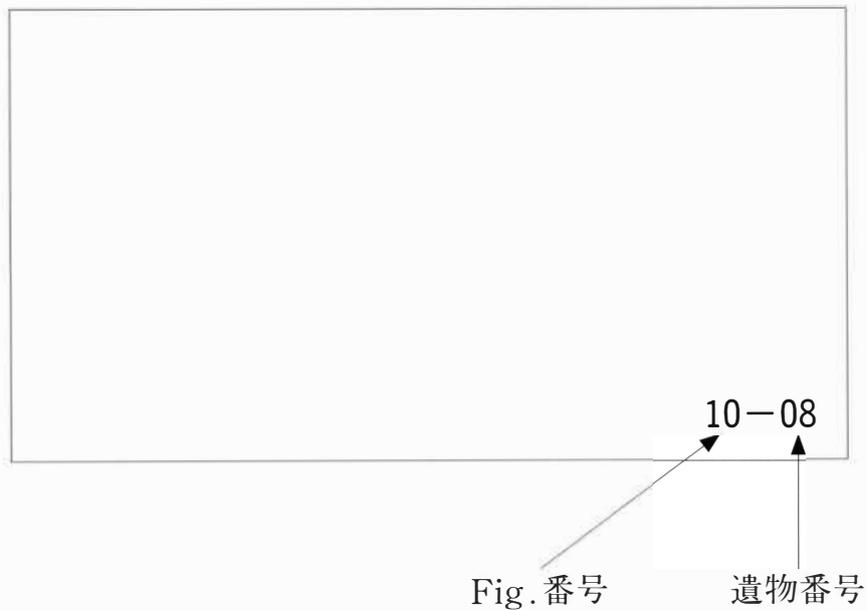


若菜湖ノ江遺跡調査区全景（空中写真：西から）

PLATE

凡 例

遺物の写真右下の番号は、以下のとおりである。





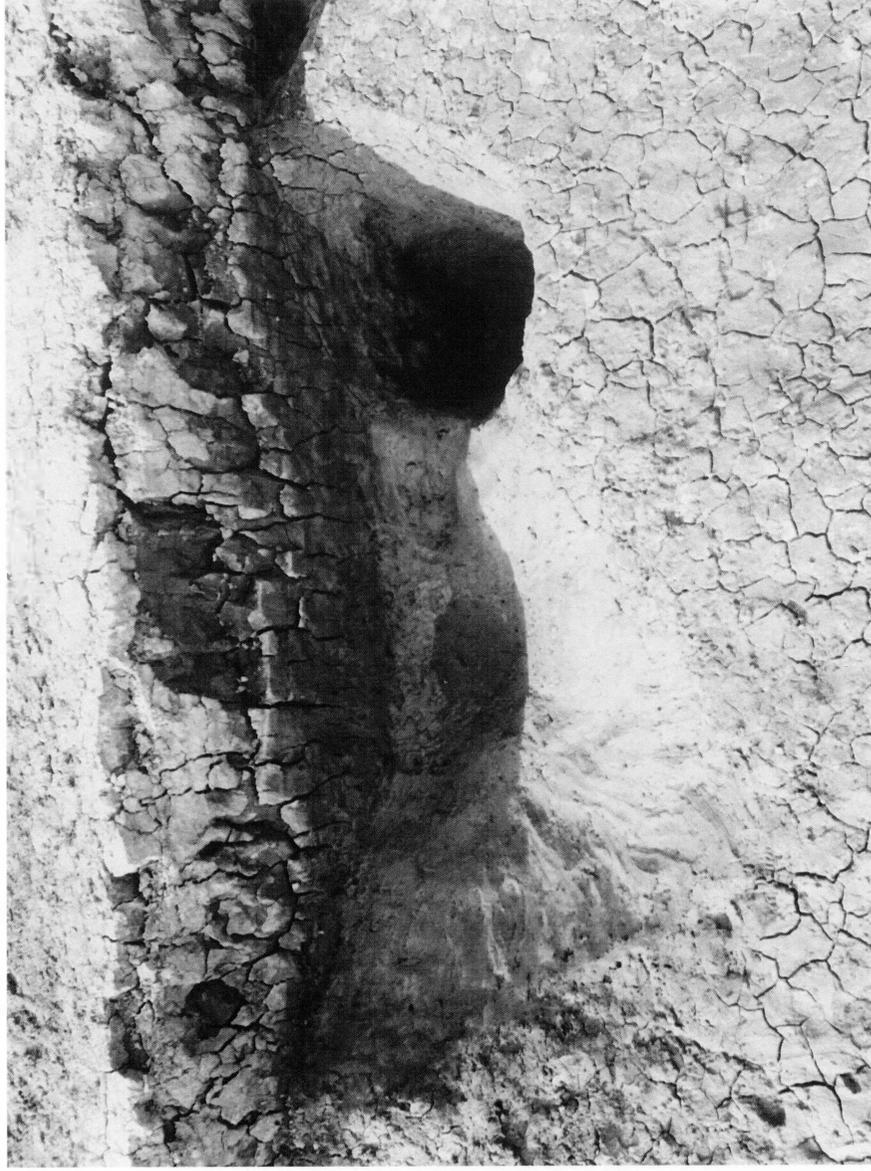
高江柳遺跡調査区全景（南から）



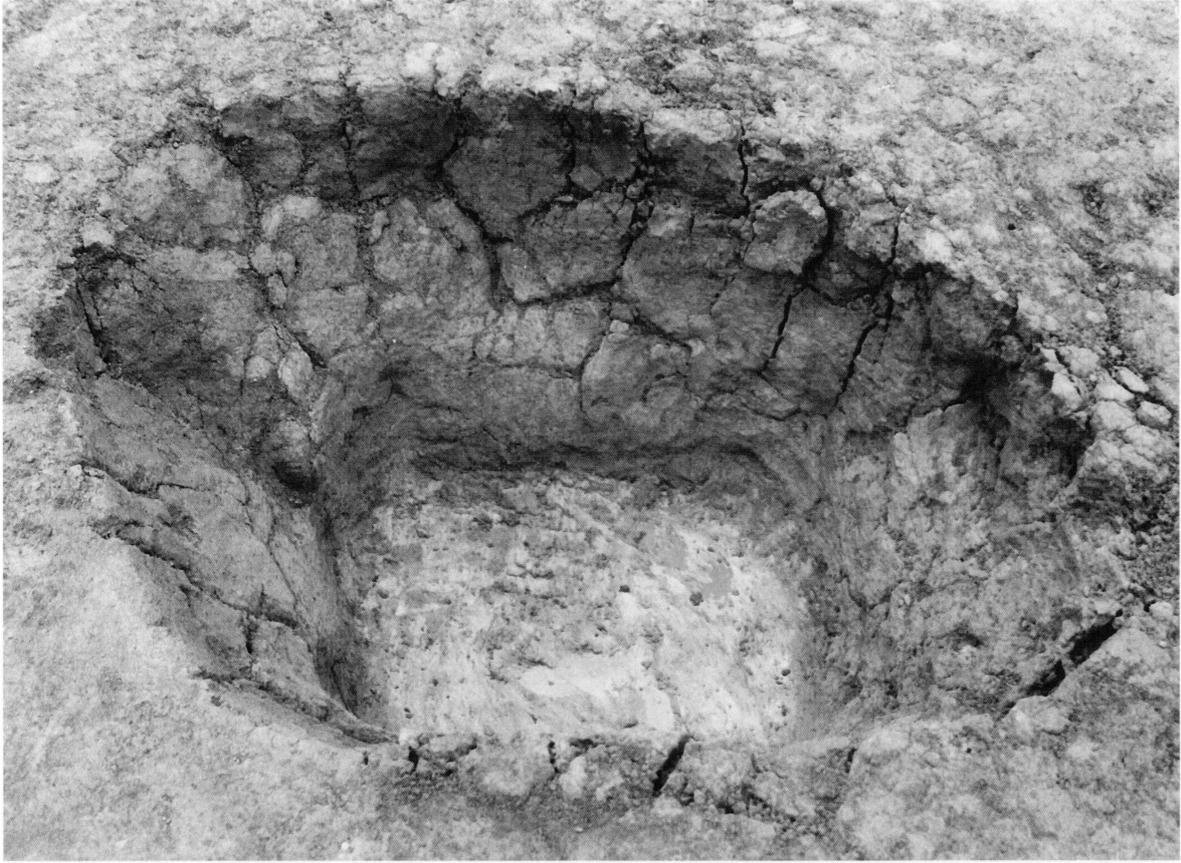
高江柳遺跡調査区全景（北から）



SD5 完掘状況 (西から)



SK2・3 完掘状況 (南東から)



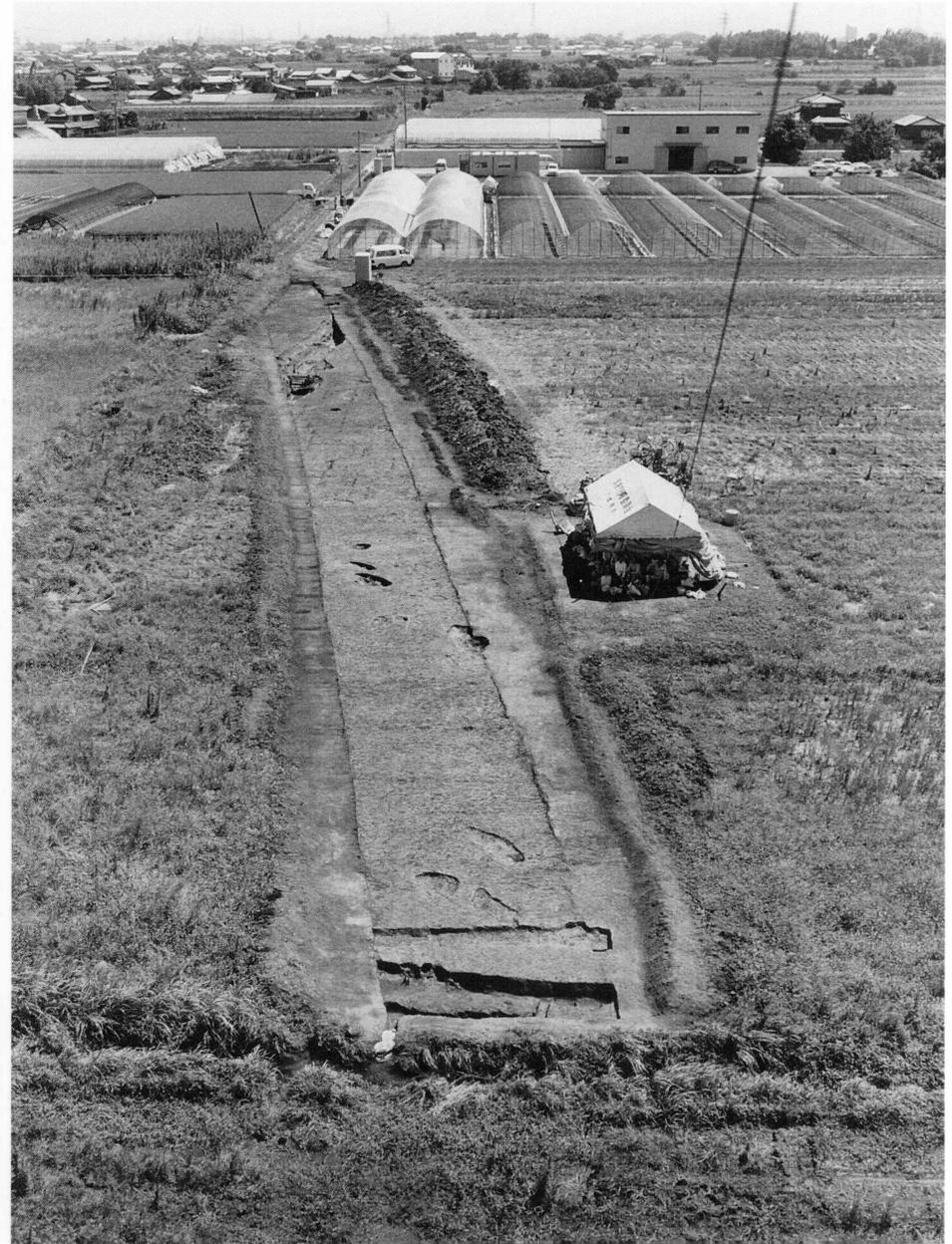
SK4 完掘状況 (西から)



SK8 完掘状況 (東から)



高江キレット遺跡調査区全景（空中写真：東から）



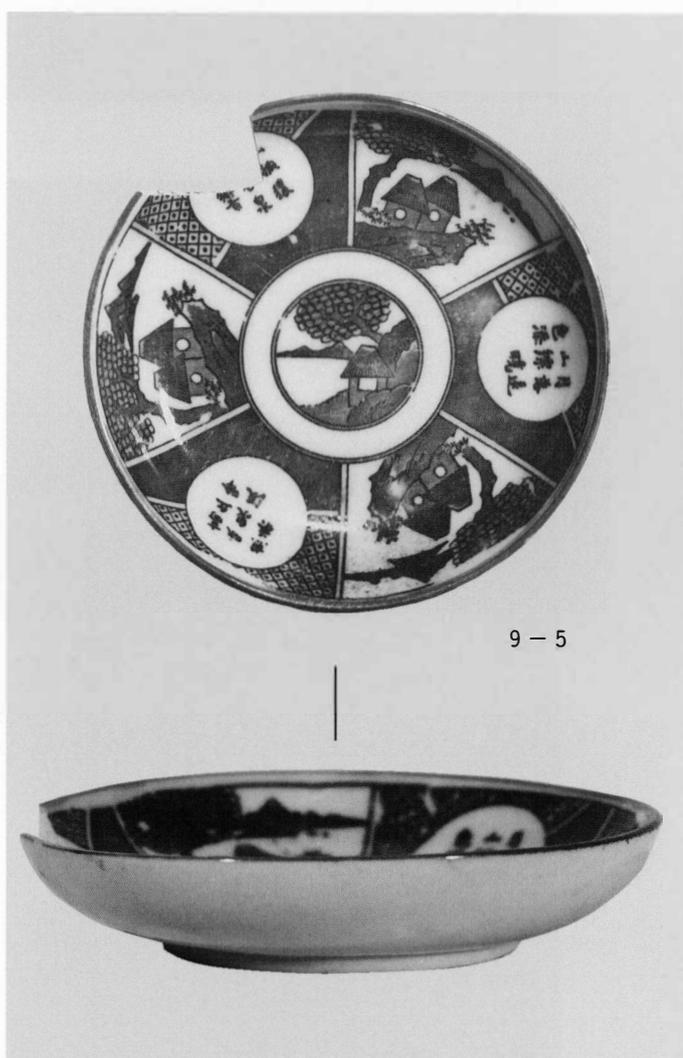
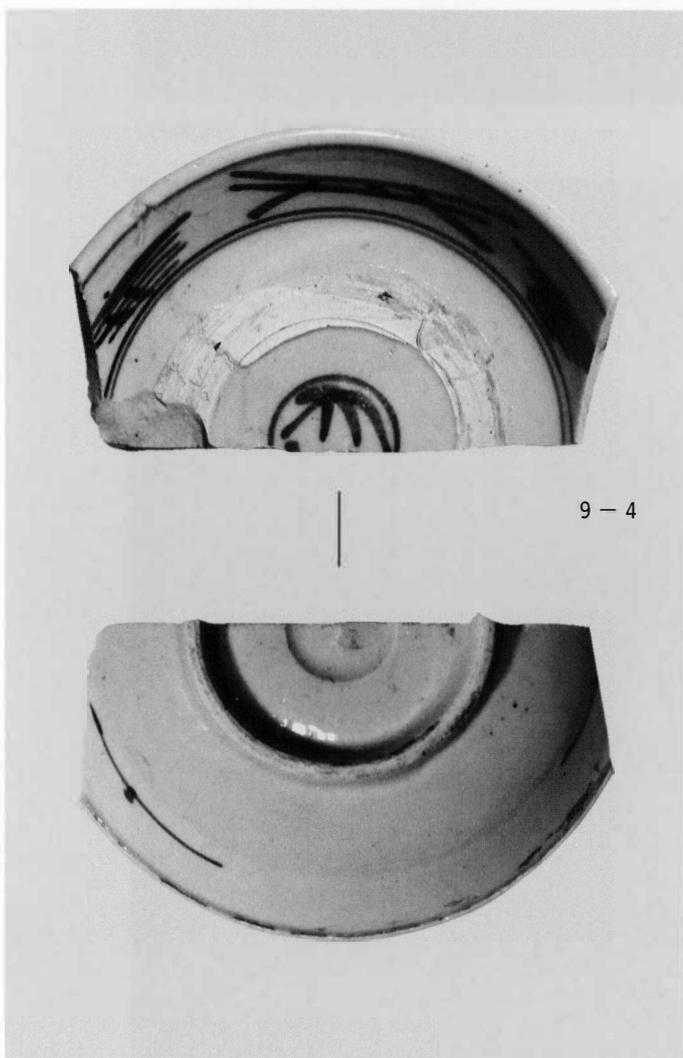
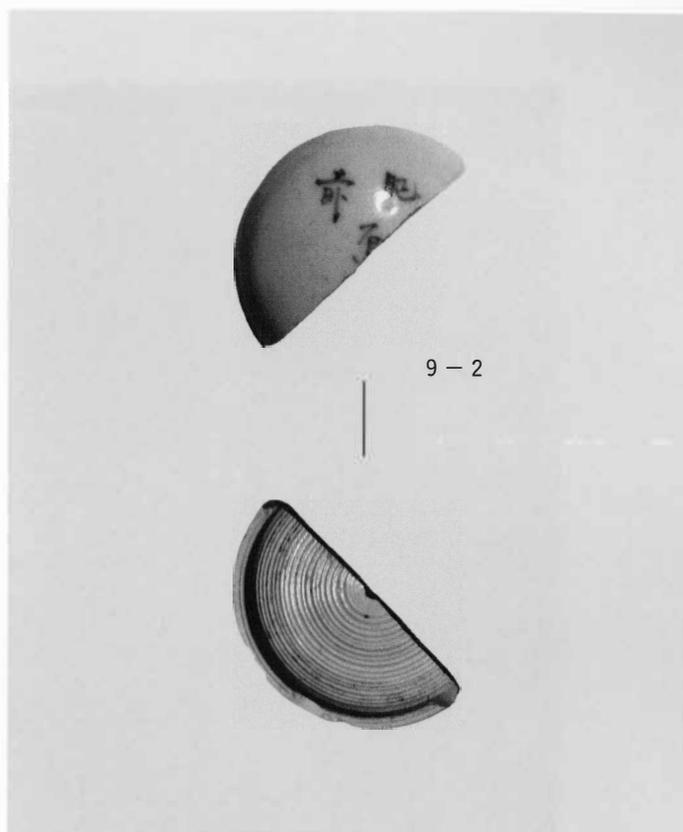
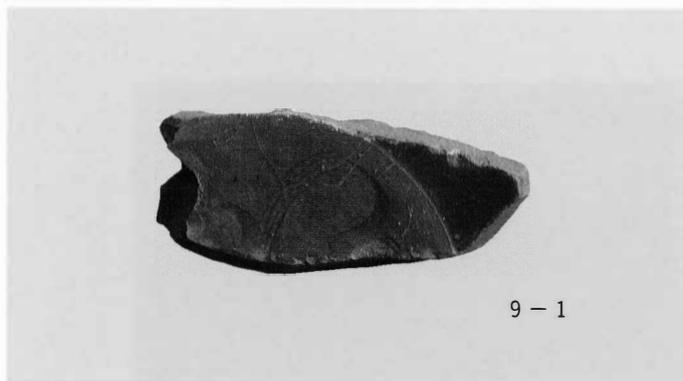
高江キレット遺跡調査区全景（空中写真：西から）

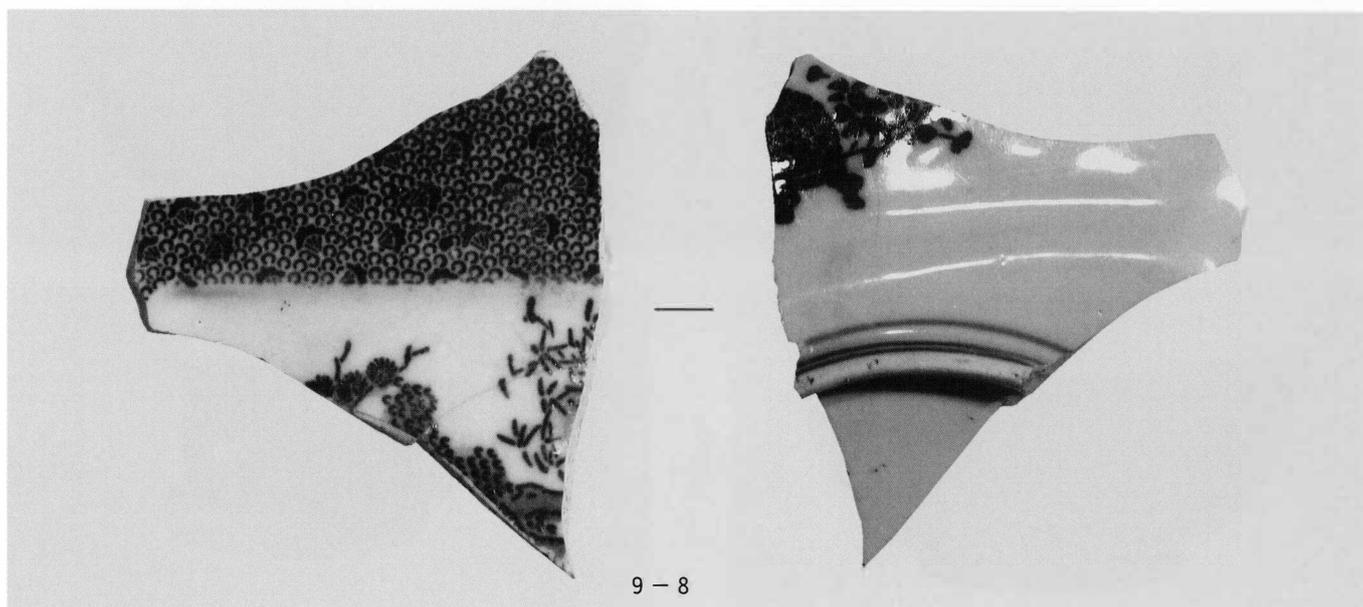
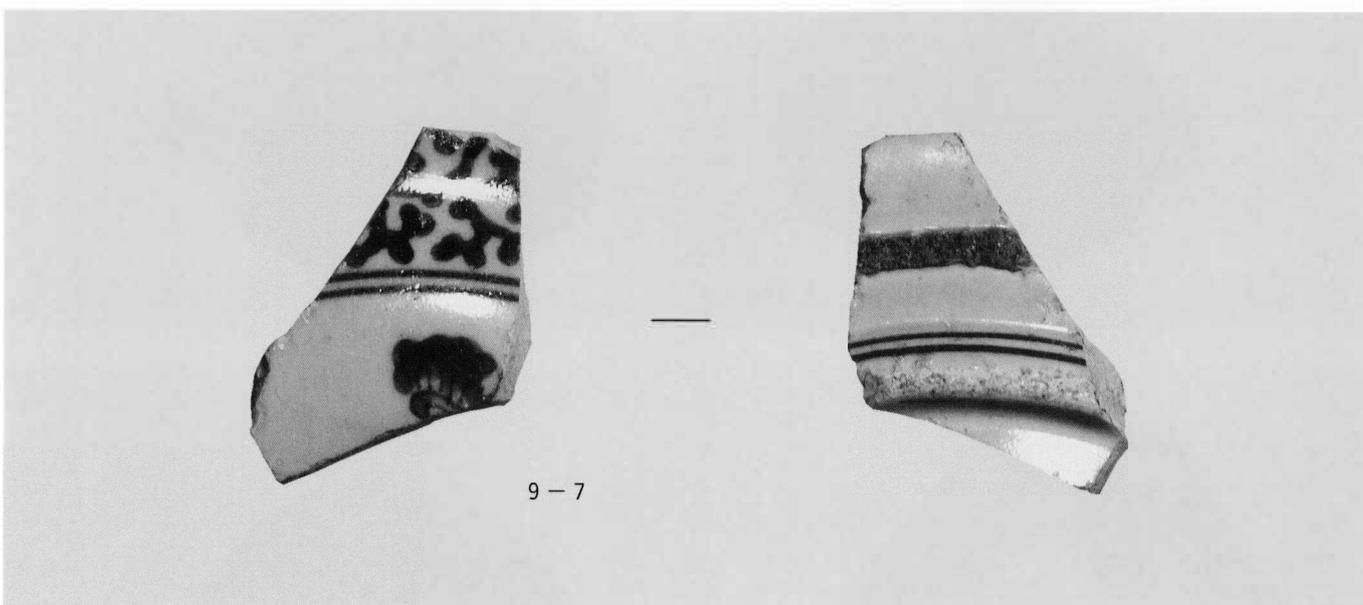
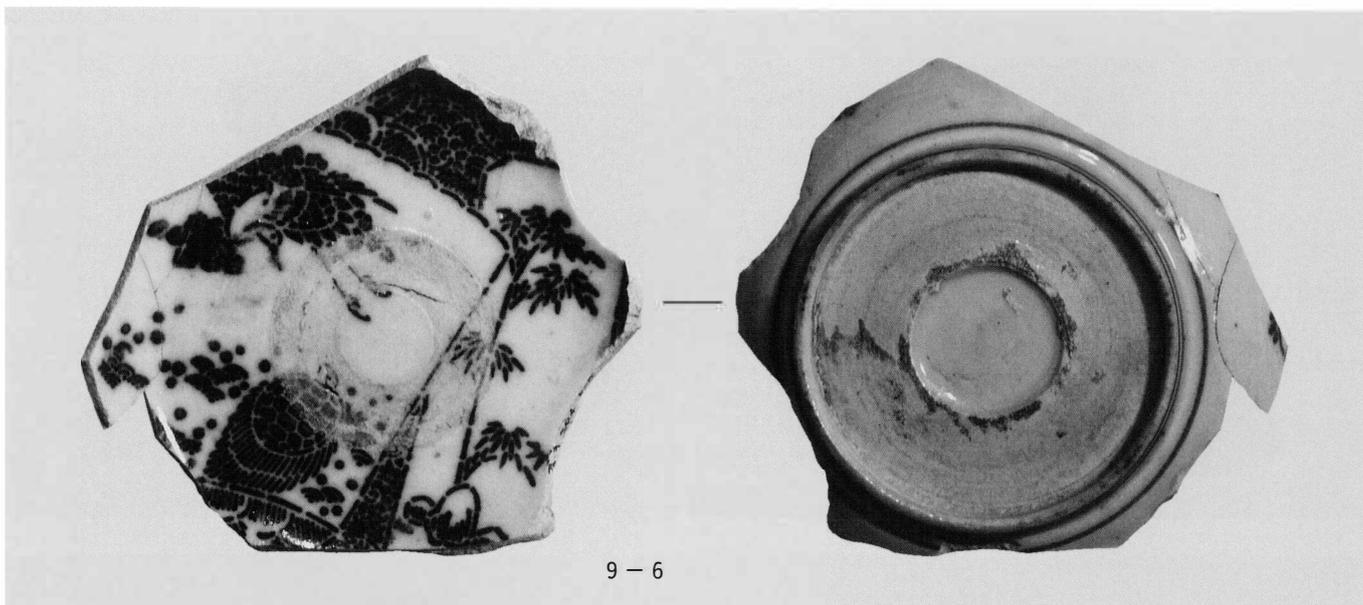


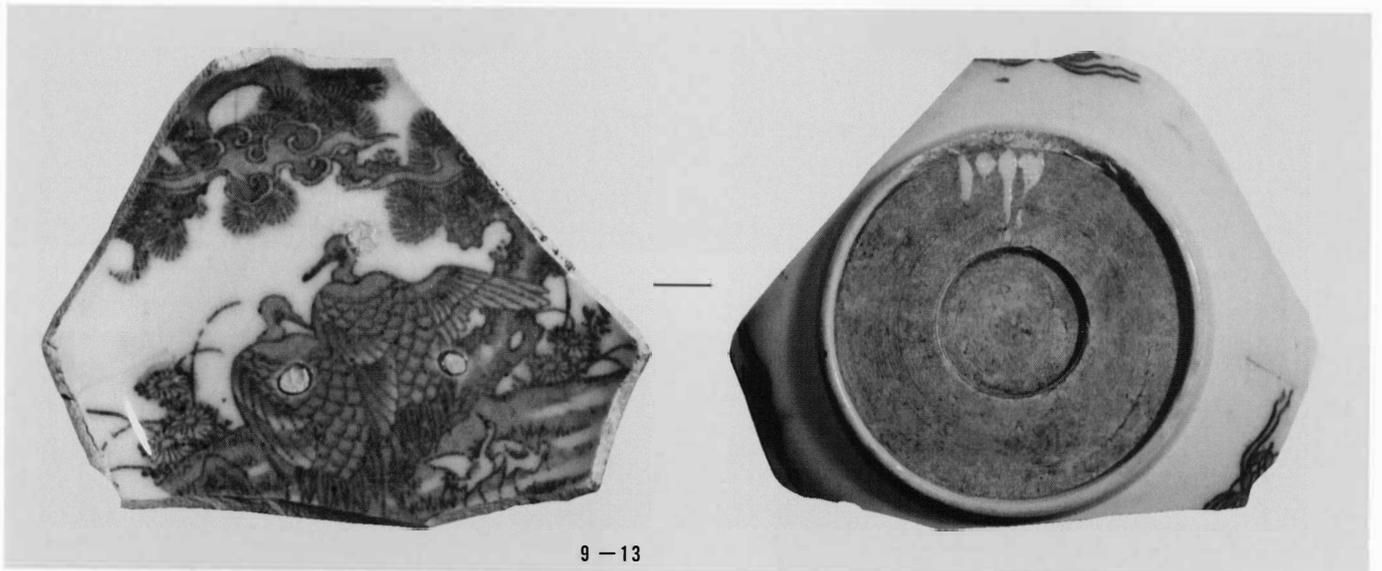
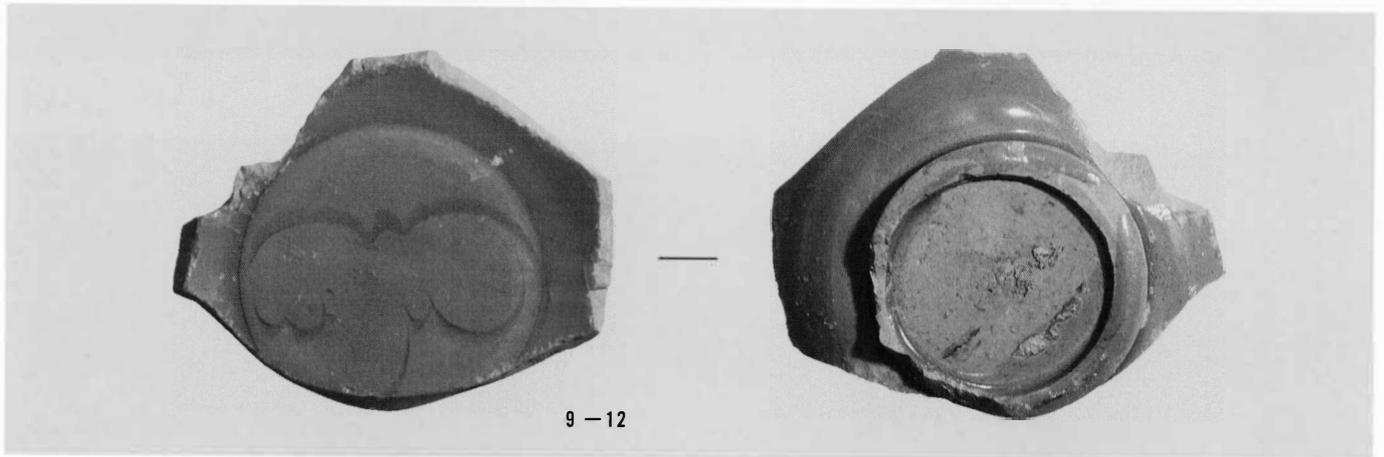
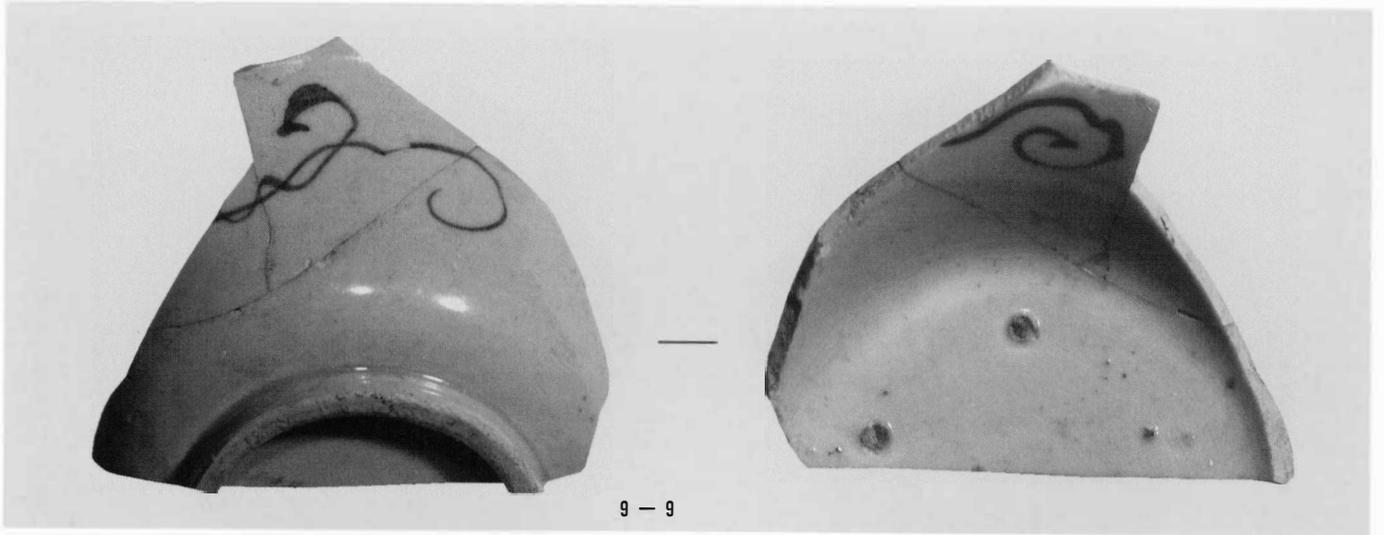
SD4 出土状況 (西から)



SD4 施設確認状況 (北から)







筑後北部第二地区遺跡群Ⅱ

筑後市文化財調査報告書

第32集

平成13年3月31日

発行 筑後市教育委員会
福岡県筑後市大字山ノ井898

印刷 大同印刷株式会社
佐賀県佐賀市天神一丁目1番32号